

Botarde! Di'ak ka lae? (こんにちは、元気ですか?)

東ティモールでは最近(7月初旬)ユーロの試合での盛り上がりがすごいです。やたらサッカーのユニフォームを着ている人や国旗を見かけます。娯楽が少ないことと国民性もあって一丸となって楽しんでいる感じです。あ、ちゃんと東ティモールにもナショナルチームはあってワールドカップの予選にも参加したんですよ!(1次予選で敗退ですが🐞)



【感染管理と予防講習会】



7/8~10、15~18 にかけて私の所属する品質管理室主催の感染管理と予防講習会が開かれました。1週目は清掃員対象で掃除用の薬液の作り方、机やベッドなどの機材の拭き方など、2週目は看護師を対象に敗血症、感染の連鎖、手指衛生など各ターム2日間にわたる講義・演習を行い知識・技術習得と確認を行いました。講習会に参加して驚いたことはティーブレイクが多いことです。午前と午後に30分ほどのブレイクタイムが設けられ、昼食も主催者側が準備をして参加者に振る舞います。これは東ティモールの文化で、どの講習会でもお茶とお菓子を用意しなくては参加者に失礼にあたるそうです。あとは必ず写真を撮ることに文化の違いを感じました。



【七夕祭りinTimor-Leste】

今年は7月7日が日曜日ということもあり、七夕イベントが先輩隊員によって企画され、東ティモール唯一のショッピングモールでイベントが開催されました。

日本の文化を知ってもらいつつ、派遣先のスタッフにお金を稼ぐ体験をしてもらうという企画意図の下(アルバイトやインターンの制度がなく労働人口の6割が就業出来ない現状にある)、100人近い来場者とともに七夕体験をしました。テトゥン語で七夕とは何か、なぜ短冊を飾るのか説明するのは難しかったです。大人も子供もたくさんに人が短冊に願い事を書き笹に飾っていきます。一生懸命書いている姿はとてもかわいかったです。先生になりたい！自分のお店を持ちたい！など願い事は日本と変わりありませんね(^o^)/



来場者の短冊でいっぱいになった笹



ボランティアで集まった JOCV

東ティモールにも七夕の星伝説のような物語は存在します。有名なものは国の成り立ちとなったワニと少年の冒険譚でしょうか？それがお祭りとして根付いているわけではありませんが、東ティモールを象徴する生き物は？と聞かれたらワニ！と誰もが答えるくらいなんですよ！最後にリンクを貼り付けますのでぜひ“東ティモールの「失われた世界」”という物語を読んでみてください(*^_^*)(七夕とは話がずれましたね。。。)

【東ティモールの紹介② お金】



日本では7月3日に20年ぶりの新札が発行開始されたということで、今回はお金について紹介します。

便り①でも少し触れましたが、東ティモールでは米ドルを使用しています。そして補助通貨としてセンタボ(Centavos)と呼ばれる独自硬貨が流通しています。米ドルが使用出来るとはとっても高額な紙幣は取り扱いがありません、20ドル紙幣で

さえスーパーなど大きな店舗でしか使用できません(出来なくはないのですがかなり嫌な顔されます...)。先日 200ドルを ATM から引き出したのですがすべて 20ドル紙幣でした。そのくらい高額紙幣での売買が少ないってことですよね。

また1ドル、2ドルは独自硬貨で流通しているので1ドル紙幣も使えません。

結構雑なところもあり5センタボ以下のおつりは省略されがちです。言えらるるのでしょうが面倒くさいのもあったことはありません。

最近同僚にお給料事情を聞きました。というのも東ティモールでは\$500/月で高所得者となる、という記事を読んだからです。日本円にすると約 8 万円で高所得者...スーパーでの購入品を見ると物価が日本と変わらない印象を受けるので勘違いしてしまいますが所得は多くないようですね。

給料についてはどうも本当のようで、看護師長クラスの人にもこんなにはもらっていないそうです。

* 東ティモールの「失われた世界」*

monash.edu/_data/assets/pdf_file/0009/2614482/O-Mundo-Perdido-Japanese-complex.pdf

ではまた次号でお目にかかりましょう！
Adeus!!